

令和4年度熊谷市農業施策に関する

意見書

熊谷市農業委員会

## はじめに

熊谷市農業委員会は令和3年9月、任期満了により新たに農業委員の任命、農地利用最適化推進委員の委嘱が行われました。新体制のもと、引き続き担い手への農地利用の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進等の取り組みを進めて参ります。

そして、積極的に地域の先頭に立ち、各農家との調整を行うことで、農地中間管理事業の導入を含めた人・農地プランを実行し、さらに成果を確かなものにするため、今後も市と手を携えて、地域の実情に即した農地利用の最適化の推進による本市農業の発展に寄与して参る所存です。

この度、熊谷市農業委員会として、農地利用の最適化を効率的かつ効果的に実施するために必要な施策の改善等について、意見を取りまとめましたので提出いたします。

令和3年10月5日

熊谷市長 富岡 清 様

熊谷市農業委員会

会長 木部 富次

## 1 遊休農地対策について

### (1) 遊休農地解消のための支援

荒廃が進んだ遊休農地は、解消作業に多額の費用が必要となる。また、高齢化等により遊休化する農地はさらに増えることが懸念される。遊休農地を解消し、担い手に農地の集積、集約を推進するために補助額の見直しなど、さらなる改善を図られたい。

### (2) 基盤整備事業の推進強化

農地が遊休化し、荒廃が進む原因のひとつとして、未整備地であるために効率的な耕作ができないことなどが挙げられる。

未整備地においては、基盤整備事業を展開しなければ荒廃農地を解消することはもとより、担い手への農地の集積・集約化もままならず、一層の荒廃化が懸念される。

農地を有効利用するためには、担い手が利用しやすい環境を整備することが重要であるため、基盤整備事業のなお一層の推進を図られたい。

## 2 担い手の育成・支援について

### (1) 農家への支援

農業従事者の高齢化や離農は歯止めがかからず、地域の担い手への期待はますます大きくなっている。そのため、担い手が安心して規模拡大し、かつ安定的かつ効率的な農業経営ができるよう、農業用機械の購入に対するさらなる助成やあっせん・販売・リースなど支援策について引き続き検討されたい。

### (2) 新規就農者等への支援体制の整備

新規就農者や企業の農業参入の定着、営農の安定した継続を図るため、参入時の経済的支援や農業技術、販売のノウハウなどについて県・市・JA・農業大学校等の関係機関の連携を強化し、多面的に新規就農者等の支援体制について整備されたい。

また、農用地利用権を設定するに際して、新規就農者が短期間の貸借を行う場合にも補助の対象となるよう検討を進められたい。

### 3 農地の有効利用の推進について

#### (1) 農地中間管理事業のさらなる推進

本市においても農地中間管理事業の実施地区が増え、農地利用の最適化が図られつつある。地域の実情に即した農地利用を目指し、未実施地区においては農地中間管理事業を推進するとともに、実施地区においても、さらなる集約化に向け検討されたい。

## 4 その他

### (1) 農業技術の伝承と新技術の普及と支援

ベテラン農家の農業技術を「見える化」して伝承することや農作業の省力化、自動化を推進する新技術を導入することは、大規模化や若手農業従事者の確保にあたり大きなアドバンテージとなる。これを実現するための試験的な取り組みや体制の強化について早期に実現を図られたい。

### (2) 市民が農業に触れる機会の拡大

集約化が見込まれず利用状況の低い農地の荒廃化を抑止するため、市民が気軽に利用できる市民農園事業の取り組みを推進するとともに、食育までを含めた学校農園の拡大について検討されたい。

### (3) 熊谷ブランドの推進

市内で生産される農産物や加工品について、その付加価値によりブランド化を図り、売れる商品づくりを進め、農業従事者の生産意欲を高める事業について推進されたい。